

[平成 22 年度参考となる技術]

[技術名] イクヒカリのいもち病発生防止技術

[要約] 平成 19～20 年に県内で採取したいもち病菌にはイクヒカ리를侵す系統が認められないことから、葉いもち防除が省略できる。り病化を防ぐために周辺ほ場の菌密度は低く維持する。

[キーワード] イネいもち病、レース

[担当] 農業試験場 生産環境部 病理昆虫研究グループ

[連絡先] 電話 0776-54-5100 電子メール y-satou-y1@pref.fukui.lg.jp

[背景・ねらい]

イクヒカリは、出穂期、成熟期ともにコシヒカリ並の中生で、短稈の偏重型品種で倒伏しにくく、収量性は高い品種として平成 16 年に奨励品種となった。いもち病菌の発生原因として、その品種を侵す系統の分布状況がある。平成 19～20 年に県内で発生したいもち病菌を採取し系統の分布状況を明かし、今後のイクヒカリの葉いもち防除の参考資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 平成 19 年、20 年に県内で採取したいもち病菌 234 菌株のうち、ハナエチゼンを侵した系統は 32%、あきさかりを侵す系統は 61%で、地域によって分離率に差がみられる。
2. イクヒカ리를侵す系統は確認されなかったことから、葉いもち防除は当面必要ない。
3. 抵抗性品種を侵す新たないもち病の系統は、いもち病が多発すると出現する可能性があるため、周辺圃場のいもち病防除を徹底し、多発させない。

[成果の活用面・留意点]

1. イクヒカリに葉いもちが発生したら、新たな系統が出現した可能性があるため、関係機関に連絡するとともに、薬剤で防除する。
2. 隣接圃場で葉いもちが多発生した場合は、穂いもち防除を行う。
3. 種子は健全な採集圃のものを使用し、適正な肥培管理を行う。
4. 新しいレースの出現予測は「いもち病菌レースの長期変動予測モデル」（農研機構中央農業総合研究センター <http://narc.naro.affrc.go.jp/inada/ml/ml-systop.html>)を参照する。

[具体的データ]



図 1 レース 001 の各品種に対する罹病性
(左からハナエチゼン、コシヒカリ、イクヒカリ、あきさかり)



図 2 レース 047 の各品種に対する罹病性
(左からハナエチゼン、コシヒカリ、イクヒカリ、あきさかり)

表 1 県内のいもち病菌レース分布状況と主な作付品種の葉での罹病性
(罹病しない:○、罹病する:×、地区別レースの分布割合:%)

菌株数	レース分離率 (%)							
	001.0	003.0	005.0	007.0	013.1	017.1	033.1	037.1
ハエチゼン	○	○	○	○	○	○	○	○
コシヒカリ	×	×	×	×	×	×	×	×
イクヒカリ	○	○	○	○	○	○	○	○
あきさかり	○	○	○	×	○	×	○	×
高志	31	32	7	0	39	0	0	0
坂井	21	10	0	0	62	0	0	0
奥越	45	84	2	7	0	0	2	0
丹南	70	10	3	0	51	0	0	6
嶺南	67	6	15	5	5	0	0	0
計	234	26	6	2	27	0	1	2
平成3年	25	32	20	4	12	0	0	16(033)
平成5年	35	20	11	3	6	3(013)	0	11(033)
平成6年	57	32	11	9	4	4	0	12
平成13年	15	33	13	0	0	0	0	7

菌株数	レース分離率 (%)						
	041.0	043.0	047.0	101.0	103.0	105.0	107.0
ハエチゼン	○	○	×	○	○	○	○
コシヒカリ	×	×	×	×	×	×	×
イクヒカリ	○	○	○	○	○	○	○
あきさかり	○	○	×	○	○	○	×
高志	31	0	0	13	7	0	3
坂井	21	0	0	29	0	0	0
奥越	45	0	0	2	0	2	0
丹南	70	0	0	30	0	0	1
嶺南	67	0	0	64	0	2	2
計	234	0	0	32	1	1	1
平成3年	25	4	0	0	0	0	0
平成5年	35	34	3	0	0	0	0
平成6年	57	4	4	16	0	0	0
平成13年	15	0	0	20	0	0	0

※平成3年、5年はコシヒカリの病斑から分離

※平成3、5、6年北陸農業試験場、13年中央農業総合研究センター北陸研究センター調べ

[その他]

研究課題名: いもち病菌の分布と突然変異要因の解明によるいもち病発生低減技術の確立

研究期間: 2007~2008年度

研究担当者: 佐藤陽子 古河衛(嶺南振興局)